

5千年ぶりに蘇る

アーユルヴェーダ

①

バイオリンク

辻大作社長

このところ「予防医学」とか「統合医学」という言葉や文字がマスコミに登場する機会が増えている。それに伴ってインドの伝承医学「アーユルヴェーダ」への関心も高まっている。この「アーユルヴェーダ」は十年ほど前、日本でも「インドエステ」としてブームを起したこともあり、エステティック関係者の間では馴染み深いネーミングでもある。21世

紀のこれから、この「アーユルヴェーダ」が再び話題を呼ぶ可能性があるようにある。そこで「アーユルヴェーダ」に造詣の深いバイオリンク販売の辻大作社長に「アーユルヴェーダ」について分かりやすく解説をお願いした。

漢方や西洋医学の祖

体のバランスを整える

「アーユルヴェーダ」とは、インドのサンスクリット語で「生命の科学」といい、何と五千年の歴史を誇る世界最古の民間伝承医学です。

「アーユルヴェーダ」ということは、当然のことながら宗教とも密接につながっており、「文明」宗教それから「医学」が三位一体となって発展を遂げたものです。

「アーユルヴェーダ」というのは、サンスクリット語で「アーユス(生命)」という言葉と「ヴェーダ(文献あるいは科

教といえます」と、「仏教」があり、二千年五百年前に中国に仏教が伝来するのと同時に「アーユルヴェーダ」も中国に伝来し、「中国医学」、今日で言う「漢方」となります。

「アーユルヴェーダ」は、書物になった医学書としては最古のもので、今から約五千年前、インド文明が発達したのと同じ時に発展して来たといわれています。

「アーユルヴェーダ」は、それと時を同じくして、現在のヨーロッパの方にも伝来し

ました。この時はインドからベルシャに伝わり、そこで「ユナニ医学」として定着しました。その「ユナニ医学」がさらに何百年してから発展して広がったのが「ギリシャ医学」というよう

「ユナニ医学」は、世界の三大伝承医学と呼ばれているのですが、すべての起源はインドの「アーユルヴェーダ」であるといえます。

「アーユルヴェーダ」は、このようにすべての起源といえる「アーユル

ヴェーダ」の考え方を一言で言えば「体のバランスを崩す毒素を人体から排泄させる」と「ありま

は馴染み深いネーミングでもある。21世

文明の発展と同時に

ヨーロッパの方にも伝来し

「アーユルヴェーダ」

「中国医学」